

2021年7月26日

日本円金利指標に関する検討委員会

円金利スワップ市場における気配値呈示の移行対応（TONA First）について

ターム物金利構築に関するサブグループにおいて、円金利スワップ市場における TONA First（流動性供給者による（ブローカー経由の場合を含む）気配値呈示を、円 LIBOR ベースから TONA ベースに移行すること）に関して、以下のコンセンサスを得た。同サブグループとしては、市場参加者が、以下の事項を踏まえたうえで所要の対応を講じることを期待する。

—— 「円金利スワップ市場における LIBOR 公表停止への対応」（2021年3月26日公表）では、「円金利スワップ市場における気配値呈示を円 LIBOR ベースから TONA ベースに移行する時期は、遅くとも 2021年7月末とすること。」としており、本ステートメントはその具体的な取扱いに関するもの。

1. インターバンクのボイス・ブローカー市場において、2021年7月30日の取引終了をもって、以下に掲げる円金利スワップ（線形商品）の気配値呈示*を一斉に停止すること。

*：執行機能を含む。以下同じ。

- 円 LIBOR アウトライト・スワップ取引（円 LIBOR vs 固定金利）
- 円 LIBOR 金利スワップ・カーブ取引
- 円 LIBOR 金利スワップ・バタフライ取引
- 円 LIBOR vs TIBOR ベーシス・スワップ取引
- 円 LIBOR アセット・スワップ取引（円 LIBOR vs 日本国債）

2. 1. はディーラー対ディーラーのインターバンクのボイス・ブローカー市場における取引を対象としており、その他の取引（ディーラー対顧客取引を含む）は含まない。

3. 1. に列挙している取引のインターバンクのボイス・ブローカー各社による気配値画面の提供については、停止に伴うエンド・ユーザーへの影響等を勘案のうえ、可能な限り速やかに、当該ブローカー各社において適切な対応をとることを期待する。

4. インターバンクのボイス・ブローカー市場における、円金利スワップ（非線形商品）の気配値呈示を一斉停止する期日については、円金利スワップ（線形商品）の取り組みを参考に、議論を継続する。

以 上